



© 政川慎治

NOMURA
MANSAI

解説 — 飯田 豪

『釣針』
つりばり

『蚊相撲』
かずもう

野村萬齋 狂言会

2024

主 — 大郎冠者 — 野村 萬齋
妻 — 月崎 晴夫

大名 — 高野 和憲
太郎冠者 — 野村 裕基
蚊の精 — 深田 博治
後見 — 内藤 連

腰元 — 中村 修一
腰元 — 飯田 豪
乙 — 岡 聡史
後見 — 深田 博治



© 吉川信之

2024年 **5月31日(金)** 18:30開演 (18:00開場) **日進市民会館 大ホール**

入場料(全席指定) **4,000円** ※未就学のお子さまの入場はご遠慮ください。※車椅子席は市民会館のみの取扱いです。※駐車場には限りがありますので、乗り合わせ・送迎・公共交通機関をご利用ください。

チケット販売

4月6日(土)のみ10時から電話予約受付
[座席指定不可]

市民会館受付専用電話 **0561-74-5700** (午前10時～午後5時)
※受付開始後、しばらくは電話が繋がりにくいことがあります。※購入枚数 お一人様 **5枚**まで
く・引換期間:4月9日(火)～13日(土) 午前8時30分～午後7時 ・引換場所:日進市民会館窓口

4月7日(日)10時からチケットぴあ受付

インターネットまたはセブンイレブンにて販売 ※要手数料 Pコード **525-339**

4月16日(火)から市民会館窓口販売

1階窓口にて販売(午前8時30分～午後9時) ※購入枚数 お一人様 **5枚**まで



主催/日進市教育委員会 運営/日進アシスト株式会社(指定管理者)

検索 **日進市民会館**

お問合せ/日進市民会館 **0561-72-0955**(午前8時30分～午後9時・月曜休館 ※祝日の場合は開館)

<https://www.nissin-assist.co.jp/kaikan/>

【あらすじ】

『蚊相撲(かずもう)』

大名が新しい召使を抱えようと、太郎冠者に探しに行かせる。そこへ、都に上り人の血を吸うため、人間の姿になった江州守山の蚊の精が通りかかり、正体に気づかない太郎冠者は蚊の精を連れ帰る。新しい召使は相撲が得意と聞き、喜んだ大名は早速取らせて見たいと思うが、相手がいないのでやむなく自身で相手をする。蚊に刺されて目を回してしまふ。蚊の正体に気づいた大名は、勝つためにあるものを持ち出すのだが…。

人間である大名と蚊の精が相撲をとるといふ、何とも奇想天外な作品です。大らかな大名と、蚊の特徴がデフォルメされた蚊の精の動きにご注目下さい。

【プロフィール】



のむら まんさい

野村 萬齋

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦一山月記・名人伝一』『子午線の祀り』『能狂言『鬼滅の刃』『ハムレット』など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞等を受賞。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。

『釣針(つりばり)』

独り身の主人が、同じく妻を持たない太郎冠者と共に妻を得ようと西宮の夷に参詣すると、西門に置いてある釣針で妻を釣るよう夢のお告げを賜る。太郎冠者は「釣ろうよ、釣ろうよ」とフシ面白くかけ声をかけながら、主人の妻に続いて、数人の腰元、さらには自身の妻を釣り上げる。主人が奥へ入った後、太郎冠者は自分の妻に対面するのだが…。

主人の代わりに次から次へと女たちを釣り上げる、太郎冠者の洒落な舞が見どころです。色とりどりの装束に身を包んだ女たちがずらりと並ぶ、華やかな舞台をお楽しみ下さい。



ふかた ひろはる

深田 博治

1967年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。重要無形文化財総合指定保持者。万作一門の研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』『花子』等を抜き、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演。朝日カルチャーセンターをはじめ、全国各地での狂言講座、ワークショップで講師を勤め、狂言の普及に力を注いでいる。出身地・大分で「狂言やっとな会」を主宰している。



たかの かずのり

高野 和憲

1972年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。重要無形文化財総合指定保持者。万作一門の研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』等を抜き、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演。朝日カルチャーセンター・新国立劇場演劇研修所をはじめ、全国各地での狂言講座、ワークショップで講師を勤め、狂言の普及に力を注いでいる。



つきざき はるお

月崎 晴夫

1964年生。野村万作に師事。能楽協会会員。万作一門の研鑽会「狂言ざん座」同人。『奈須与市語』『三番叟』を抜くなど狂言の舞台に出演する一方、舞台『子午線の祀り』『ハムレット』等にも出演。「万作の会」の演者の一人として活躍している。また、朝日カルチャーセンターをはじめ、全国各地のワークショップで講師を勤めるなど、狂言の普及に力を注いでいる。



のむら たいちろう

野村 太一郎

1990年生。故五世野村万之丞の長男。2017年より野村萬齋に師事。能楽協会会員。3歳の時に『鞍猿』で初舞台。既に『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜く。能楽ユニット「MUGEN 能」同人。新作品「白雪姫」を演出、主演。青山学院大学、桜美林大学非常勤講師。



おか さとし

岡 聡史

1980年生。野村万作に師事。能楽協会会員。文化学院卒業後、狂言の道を志し修業を続け、『奈須与市語』『三番叟』を抜く。



なかむら しゅういち

中村 修一

1989年生。野村万作に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。9歳で入門後、幼少より舞台に立ち、『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜く。全国各地の狂言ワークショップで講師を勤めるほか、早稲田大学、東京女子大学、共立女子大学の狂言サークル及び松尾塾伝統芸能を指導している。



ないとう れん

内藤 連

1986年生。野村万作に師事。成城大学卒業。国立能楽堂・能楽三役第八期研修修了。能楽協会会員。『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』を抜く。全国各地の狂言ワークショップで講師を勤めるほか、東京大学、お茶の水女子大学、成城大学の狂言サークル及び松尾塾伝統芸能を指導している。



いいた ごう

飯田 豪

1989年生。野村万作に師事。日本大学芸術学部卒業。能楽協会会員。大学在学中より狂言を学び始め、すでに『奈須与市語』『三番叟』を抜く。



のむら ゆうき

野村 裕基

1999年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。3歳の時に『鞍猿』で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。2023年3月には世田谷パブリックシアター『ハムレット』でタイトルロールを演じ、活動の場を広げている。